

地域と連携し地域に学ぶ教養教育科目「セルフメディケーションⅡ」

「セルフメディケーションⅡ」は、地域で実施されている健康に係わる取組みにスタッフとして実際に参加し、その取組みの意義や運営方法、地域の自治組織等について学修する教養教育科目であり、全学部の学生を対象として開講しています。昨年度参加した神村学区の「[神村歴史散策ウォーク](#)」の地域学修に加えて、今年度は、「[健康ふくやま21フェスティバル2016](#)」や「[府中学びフェスタ](#)」でも実施しました。本科目は9名の薬学部教員（松岡講師、西尾教授、石津教授、田中教授、小嶋教授、上敷領准教授、瀬尾講師、大西講師、杉原教授）が担当しており、分担して各地域のイベントに学生を引率しました。

●フィールドワーク

「[健康ふくやま21フェスティバル2016](#)」（10月15-16日開催）は、ふくやま健康・食育市民会議（フクイク21：事務局 福山市保健所）が中心となり、地域住民の皆さんへの健康づくりに関して啓発をおこなうもので、毎年、福山市ローズアリーナで開催されています。学生達は喫煙が発症の主要な原因といわれている慢性閉塞性肺疾患（COPD）の啓発活動に係るとともに、どのような健康づくりに関する取組が行われているか見学・参加学修をおこないました。



写真1 COPD測定希望者に対してCOPDの測定法を説明



写真2 アンケート調査への協力を依頼



写真3 COPD の測定で重要な息の吐き方について説明



写真4 会場内の様子

「府中学びフェスタ」(10月29-30日開催)は、幼稚園児から高齢者まで、日頃の学習成果を発表する場となっており、府中市立総合体育館ウッドアリーナ及びその周辺施設でおこなわれました。開会式では本学富士副学長が挨拶をされました。

屋内展示スペースには市内の各校などから学びの様子が展示され、舞台では演奏などが披露されました。福山大学の学生達は屋外広場の一角で、地域の皆さんの血圧の測定やCOPDの簡易スクリーニングを担当しました。また、本学薬学部 of 病態生理・ゲノム機能学研究室の5年生と4年生がおこなった骨密度測定や理科実験も好評で、本学のブースには多くの来場がありました。富士副学長も福山大学ブースを訪ねてくれました。



写真5 屋内展示スペース



写真6 COPD の簡易スクリーニング



写真7 血圧測定コーナー



写真8 骨密度測定コーナー



写真9 富士副学長と記念の一枚

「神村歴史散策ウォーク」（１１月２０日開催）は、神村学区のウォーキングマップの作成を契機に始められ、今年が第３回目になります。このイベントは健康づくりだけではなく、学区内に残されている古墳や古道などの遺跡や神社を尋ねてふるさとの歴史も学び、地域住民の交流と地域への愛着を深めることを目的にしています。そのため、神村学区の自治会を構成している様々なグループや福山市の関係団体が関与して運営されています。学生達は、運営スタッフとして、会場設営や受付、下駄飛ばしイベントへの協力、また、地域住民の皆さんと一緒にウォーキングし、地域の皆さんとの交流も体験しました。



写真１０ 参加者に配付する資料を準備する福大生



写真１１ 参加者の受付と名簿の確認を担当する学生



写真1 2 ウォーキング前の準備体操



写真1 3 参加者が下駄を飛ばした距離を測定する学生



写真1 4 下駄とばして福大生が準優勝



写真15 毘沙門堂（広島県重要文化財指定）

●事前・事後学修

これらの地域学修に参加する前に、それぞれの地域イベントの目的や自分たちの役割、さらに参加協力する心構えや態度について「事前学修」しました。地域の皆さんと積極的に交流する意識も図りました。「事前学修」によって地域イベントで学修する目標や理解を深めた後、実際に参加して、**「参加した地域イベントの運営組織と運営システム」**や**「参加した地域イベントが地域に及ぼす影響・効果」**について体験を通して学修しました。履修生の多くが1年生（経済学部、人間文化学部、工学部、薬学部の学生）でしたが、「福山大学」の名前の入ったジャケットを着用し、「福山大学」の旗を掲げた場所での活動は、福山大学生のとしての自覚も育まれました。

地域学修後、地域での活動を通して学んできたことについてスモールグループディスカッション（SGD）の中で整理し、「参加した地域イベントの運営組織と運営システム」や「参加した地域イベントが地域に及ぼす影響・効果」についてまとめ、その成果を報告するための「事後学修」をおこないました。地域のイベントを継続・発展させていくためには、PDCAの考えに基づいて検証することが重要なことから、参加した地域イベントに対して「良かった」という感想だけに終わらせるのではなく、学生達は改善や工夫点についてもSGDをおこないました。



写真１６ 地域で学修した内容についてSGDしている様子



写真１７ プレゼンテーションの準備をしている様子

●フィールドワーク報告会

以上の体験を通して学修した成果を地域学修の「報告会」（１２月２日）で、グループ毎に発表しました。チームワークを活かした報告や、独自の考えを盛り込んだ報告などがあり、学生達が地域活動により、多くの有益な学修ができたことが示されました。福山大学生を受け入れ、学修の機会を提供してくださいました地域の皆さま方に対し、感謝申し上げます。



写真１８ 報告会



写真１９ グループで協力しあって発表

地域と連携した学修において、「福山大学」の名称とロゴマークが入ったジャケット等を着用することは、学生達に福山大学生の自覚を促す効果や、地域に福山大学の活動を広報する大きな効果があります。今回、「福山大学」ジャケットはプロジェクトMから借用しましたが、枚数が十分でなく、一部の学生は着用できませんでした。地域活動をおこなう福大生のために、「福山大学」ジャケットの貸出制度があれば良いと思いました。

学生の感想（一部抜粋、原文のまま）

● 健康ふくやまフェスティバル2016

○改めて健康を意識するいい機会であった。これからも健康を意識し生活するよう心掛けたい。

○幅広い年齢層に対応したブースがあり、健康に対する意識を高められる素敵なイベントでした。ありがとうございます。

○いろいろな出し物やショーなどが行われており、誰でも気軽に行くことができ、尚且つ、自分

の健康状態見直すことができる素晴らしいイベントだと思った。自分たちが担当させてもらったブースでもさまざまな方々が来てくださり大学一年生の間にはあまりできないような貴重な体験が出来た。

○健康ふくやま 21 フェスティバルに参加してとても多くの団体が関わってこのイベントが開催されていることが分かった。

○多くの人が、健康に関心を向けているのだと実感しました。

● 府中学びフェスタ

○今回、府中学びフェスタに参加して、府中の市民の皆様と健康に関する色々なお話をしたことで、コミュニケーション力の大切さがとても実感できた。また、市民が力を合わせて地域のイベントに積極的に参加していることは、とてもいいことだと思った。

○大人だけでなく、地元の学生もブースを設けていて、地域全体で町おこしをしているんだと思った。

○遠方から訪れる人にとっては、不便な点もあるが、府中の人々にとっては、幅広い世代が顔を合わせ交流できるイベントだと思った。

○年配の方達だけでなく、若い人達にも健康に対する意識の高さがみられ自らの今後の生活と6年後のあり方の参考になった。

○実際に高齢者とかかわることができてよかった。

○地域の方に喜んでもらえてよかった。

● 神村歴史散策ウォーク

○久しぶりに運動をして、体を動かせし、その地域の歴史にも触れることができたのでよかった。

○色々な世代の人々との交流ができたし、何よりいい運動になっていい経験だった。

○地域の人と協力して運営の手伝いをこなせた。効率よく動けなかったのがあまり良くなかった。これからに生かしていきたい。

○改めて地元のことを知れてよかった。多くの知らない人たちとも関わることは大きな経験になった。

○運営に地域の人たちが積極的に関わっているのが印象的だった。

担当・薬学部/杉原成美・松岡浩史